

第三期「板橋区子ども読書活動推進計画」検討委員会 要点記録

会議名	第三期「板橋区子ども読書活動推進計画」検討委員会 第3回検討委員会
開催日時	令和2年12月18日（金） 午後2時から午後3時30分まで
開催場所	板橋区役所南館6階 教育支援センター 研修室AB
出席者	19人（敬称略） 欠席3人 〔委員〕 片岡輝(委員長) 山口諤司(副委員長) 山田貴之 秋葉芳枝 田中泰彦 〔区側委員〕 教育委員会事務局次長 藤田浩二郎 地域教育力担当部長 湯本隆 板橋第一小学校 高橋浩子(代理) 志村第四中学校校長 北村康子 西前野保育園園長 根岸順子 氷川児童館館長 金子圭子 高島平図書館 日向明子 氷川図書館 高松杏 蓮根図書館 安川まさ子 〔事務局〕 中央図書館長 大橋薫 保育サービス課長 佐藤隆行 子ども政策課長 雨谷周治 指導室長代理 指導主事 堀内雅一 地域教育力推進課長代理 青少年係長 大野功二
会議の公開 (傍聴)	公開（傍聴できる）
傍聴者数	0人
議 題	1 挨拶 2 委員紹介 3 議事事項 議事（1）「板橋区子ども読書活動推進計画2025」素案について 議事（2）パブリックコメントの実施について 議事（3）その他
配布資料	資料1「板橋区子ども読書活動推進計画2025」素案について 資料2「パブリックコメントの実施について」
所 管 課	教育委員会事務局 中央図書館 事業サービス係 （電話 6281-0291）
会議状況 (会議概要)	開会 (委員長の到着が遅れ、副委員長が司会を行う。) 副委員長：それでは議事（1）についてです。事務局より説明をお願いします。 議事事項とそれに伴う資料説明 議事（1） 「板橋区子ども読書活動推進計画2025」素案について 副委員長：資料（1）「板橋区子ども読書活動推進計画2025」素案について、質問があったらお願いします。

	委員：何点か気になっている点があります。３６ページですが、特別な支援を必要とする子どもたちへの取組ということで、今回は独立して追加したとのことで、事業を出して説明しているが、全体的に健常者に対しての計画になっている印象。例えば、発達障害の方への支援、あるいは両親とも外国籍の方への配慮について、もう少し記載があってもよいと思う。その辺はどのように考えているのか。 事務局：素案なので、取組を追加していくことは可能と考えている。後程説明するが、パブリックコメントを行うので、そこで計画を深めていく。また外国籍の方についてのアプローチは、考えていかななくてはならない。 委員：司書もいるので、現場でどのような支援が必要なのか素案に盛り込めるといいと思う。ニーズが低いことを無理に入れる必要はないと思うが、日々の図書館活動の中で感じることもあると思う。タブレットが普及しているので、タブレットを用いた支援や、また図書館にどういうサービス提供があるかなど、アクセサビリティをしっかりと提示していくことも必要なのではないかな。必ずしも予算をかけなくても、サービスの提供の中で支援を必要としている方に図書館へのアクセサビリティを高め、使いやすくなったり、探しやすくなったりするとよいのではないかな。不読率という中に、そういう方が含まれているかはわからないが、板橋区全体の計画なので、板橋区全体の図書館の活用が高まればいいと思う。 副委員長：ほかに意見はございますか。 委員：高島平図書館の周辺では、外国語を母語とする家庭が多く住んでおり、比較的多いのが中国、韓国の子どもが図書館に来館する。子どもは日本語を習うので、日本語の絵本や物語を読むことは問題ないが、親は話せても読み書きが難しい。また中国語の絵本を探しにくる方に対して、本が手に入りづらい現状があり、今後、発売状況や、中国で育った方たちが懐かしいと思える本を手に入れられるか検討している。例えば「ぐりとぐら」のように、日本の子ども達が小さい頃から読んでいる本の中国語版や韓国語版などの購入を検討している。また特別な支援を必要としている子どもについて、図書館が、小学校に読み聞かせに行っている中で、自分で読むのは難しいけれど、読んでもらうことは楽しいと言っており、そこから少しずつ本が読めるようになっていく。縦書きはだめだけれど、横書きでは苦痛にならないという子どももいるので、きちんと把握して対応している。本の検索も、図書館のホームページから中国語、韓国語が検索できるので案内している。 委員：氷川図書館では、特別な支援を必要とする子どもで、お話し会に毎回参加する方がいる。スタッフが意思の疎通で悩むことが多く、カウンターに絵本を持ってくる際に、借りるのか返すのかわからないことがある。そのため、スタッフも知識が必要だと感じている。特別支援学級の子が図書館の体験に来て図書館カードを作り、図書の貸し出しを体験したり、大型絵本を見て楽しんで参加してくれる。スタッフも特別な支援を必要とするお子さんにどう対応していけばよいのか勉強ができればと考えている。 委員：蓮根図書館では、特別な支援を必要とする子どもに、団体貸出しを定期的に行っている。図書館に来るのが難しい子供もいるので、定期的に５０冊届けている。その際に、どんな本が喜ばれているか等、アンテナを張って傾向を探っている。また、外国語が母国語の方に、英語の絵本や手で触る絵本を積極的に購入している。特に、英語の絵本と日本語の絵本がある本は、図書館にあるとよいので購入している。
--	--

	副委員長：ありがとうございます。 事務局：外国語を母語とする外国籍の方への対応として、3月に開館する新中央図書館では、ローニャ絵本館が1階に入り、外国語の絵本を扱う。蔵書の多くはアメリカやヨーロッパだが、板橋区は中国籍の方が多く居住しているので中国語の絵本も購入している。そういうところも示せればと思っている。 副委員長：私の妻はフランス人で、フランス人は子どもが小さい時は、フランスから大量に絵本を購入し子どもに読んでいる。子どもが大人になると絵本がいなくなり、絵本の交換会を神楽坂のフランス会館などで行っている。会場の確保に困ることもある。板橋でも図書館交換会を行うのはどうか。私は中国文学出身で、大学でも漢文など教えており、中国籍の学生もたくさんいるが、彼らもたくさん本を持っている。いなくなった本は回収し、使えるようにしたらどうだろうか。 事務局：図書館では二次利用サービスで資料を提供しているが、交換会という発想はなかったの で、取組で共有できるとよい。 委員：前回も発言したが、読書通帳の積極的活用ということで、私の出合えた大切な一冊という取組が必要なのは。どの本が個人的に良かったか考える時間があるとよい。 事務局：読書通帳の記載欄は180字から200字程度。その中でトップ3を選ぶなど、読書意欲につながればよいと思う。 委員：読書通帳は、ただ通帳を記載すればよいという作業にならない仕組みにしたい。 副委員長：ほかにありますか。 事務局：意見を伺いたい。重点施策で「絵本のまち板橋」としているが、子ども達が大きくなると、絵本から離れていくので、どうつなげていくかを聞きたい。 委員：中学校は、絵本作りワークショップに美術部の子がたくさん参加している。 委員：読書を習慣化していくことに、ひと工夫ふた工夫必要だと感じる。教員や司書などの周囲の大人たちが羅針盤になるのが大事だと思う。今はICTが当たり前になったので、多少のデジタル化は必要だと感じる。デジタル化の中で、紙だけではない楽しめることを考えていく必要がある。 委員：絵本作りワークショップの授業を行い、その作品を保育園や幼稚園の子ども達に見せる取組があるとよい。 委員：保育園に中学生が体験学習にくる。絵本を見て懐かしい、知っているなど言っている。小さい頃の思い出として絵本の記憶を聞くと、今も繋がっていると感じる。 委員：私自身、絵本が大好きで絵本を作ってみたいという気持ちがあった。保育専門学校出身で、試験的に絵本を作っていた。絵本に親しんできた中学生には、こういう絵本を作りたいと絵本製作に興味を持って、オリジナルの絵本を作成してもらいたい。電子書籍も悪くはないが、1ページ開いて、次に2ページ目が大きな絵だったり、絵本は色々な展開があり面白い。製作する学生が出てくると嬉しい。
--	---

委員：今年はコロナだったが、毎年、中学生がボランティアで来て、0歳から2歳の子供と遊べる機会を設けている。女の子は、小さい子に絵本を読むのが大好きで、男の子はプラレールで遊ぶ、女の子はままごとで遊ぶか絵本を読んでもくれる。自分たちが、幼児の時に遊んでくれて楽しかった思い出があり、小さい子にも楽しませてあげたいという思いがある。子ども向けだけでなく、大人が絵本を読むことも注目されていて、絵本を読み直して、どうして狼はネズミにこういふことを言ったのか、作者はこういふことを子ども達に伝えたくてこういふセリフを言ったのか、物語をどう捉えるか大人達も楽しんでいる。そういう考察も中高生のよい教材になるかと思う。

副委員長：ありがとうございます。

事務局：「絵本のまち板橋」は重点施策である。絵本の味わいの部分など、絵本作りだけではなく、言葉に変えて伝えていくなど、繋げていければと思う。

委員：18ページ、絵本のまち板橋のビジョンが示されている。児童館の方の絵本の奥深さを聞いて気づきを得た。板橋区も主体的に絵本を知っていく必要があると思う。どういふ絵本があり、どういふ活用ができるのか、会議体の中で蓄積していく必要がある。それを多くの区民の利益として、文化として発信していく取組が必要ではないかと感じ、そういう役割を中央図書館は期待されていると思った。

副委員長：ありがとうございました。

委員長：今、絵本の概念が広がってきている。絵本の中には、もの凄く高度なメッセージ性を含んだものやアーティスティックなものがある。絵本展に出展している絵本を見ると、非常にストーリー性が高い。中学生、高校生に来てもらえると、わかりやすい、楽しい、面白いだけでなく、教育的に高い、絵の芸術性の高さを知ってもらえると思う。

副委員長：絵本は子ども達のものだけではなく、外国の各民族、人種の基本的な考え方があり、区で取り組んでほしい。絵本は比較的高いので区で購入し、母親達が集まるところに貸出すのもよいと思う。

議事（2）について事務局から説明をお願いします。

議事事項とそれに伴う資料説明

議事（2） パブリックコメントの実施について

副委員長；資料（2）について、皆様から何か質問はありますか？

委員長：区民の方からの質問形式はあるのか。

事務局：素案の提示に意見をいただく形式である。

副委員長；それでは次の議事になります。その他で、本日配布した資料板橋区立中学校 生徒の読書状況調査「読書についてのアンケート」を中学校から説明をお願いします。

議事事項とそれに伴う中学校代表委員より資料説明

議事（3） その他 当日追加資料板橋区立中学校 生徒の読書状況調査「読書についてのアンケート」まとめ 今後の課題と取組例

	副委員長：それでは資料について質問ありますか。 委 員：指導室は、基本的な読み解く力をつけるため朝読書を推奨している。今年は授業時間の確保のため朝読書の確保ができないこともあったが、基礎的な読み解く力、どのように読んだらよいか先生に指導してもらっている。 副委員長：論理的な文章を理解しているのか、情緒的な文章を理解しているのか、レベルの高い中学校受験の国語の問題では論理的な文章は出ない。情緒的な問題で深読みできる読み方をしなければ合格できない。読書の難しさはそういう所にあり、本が好きであれば両方が身についていく。 委 員 長：子どもに読書と言っても、色々なジャンルがあり、その子が興味を持っていることや個性に合わせて、身近な大人がフォローしていくことが大事。たくさんの出版物がある中で、何を読むとよいのかという所で諦めてしまう場合がある。その子の方向性にあった本を用意して、個別的なリードを行うことが大人の役割ではないか。学生、生徒という見方ではない、もっとパーソナルな人間関係を築くことで、その子の力になっていく、本との出会いが大切ではないか。 事 務 局：子どもの読書について大人の関与の部分の話、丁寧に向き合っていきたい。 副委員長：その他①の連絡を事務曲からお願いします。 事 務 局：次回開催日及び議題について。当初1月に予定していた第4回の検討委員会は、パブリックコメントを踏まえて、最終案をまとめるので、3月1日（月）教育支援センターで開催する。パブリックコメントの結果も皆さまにお示しする。 副委員長：本日の検討委員会を終了いたします。
	会議の要点は、以上のとおり。